

中村俊定文庫
文庫 18
568
1





白序



大塊噫氣其名風乎ておの
 北きよき声や風響りて人の
 およぶるを風の音とてい
 秋家に~~~~~の風は也
 風情々の聲に々言風大に響
 音に響るる風の音とてい
 風~~~~~の音とてい

風之来舟之憂りしをなす其れとの

音りと傳くし高木大人 尾陽儒業 賢若 先生也 雅号 泥亀云

父君ハ蕉門ノ士 高木推之史也 三ノと書るハ 久あ竹の

年の子に傳へ上りて成るるれ

地とも傳らせとも隔しともさるる

つとちぬし風息頻りの難るる

とるるにげると蹟しとぬとねち

一集と催やう 蓋しと始しと

翁唯と看しと大人ぬらり

と並べ次し臨書れ文と書

翁句ノ字形ヲ写シテニ滿シテ正西標トス別有是ヲ解ハノ文面ナリ 四方しと

歌と伝ふのやれとと筆は

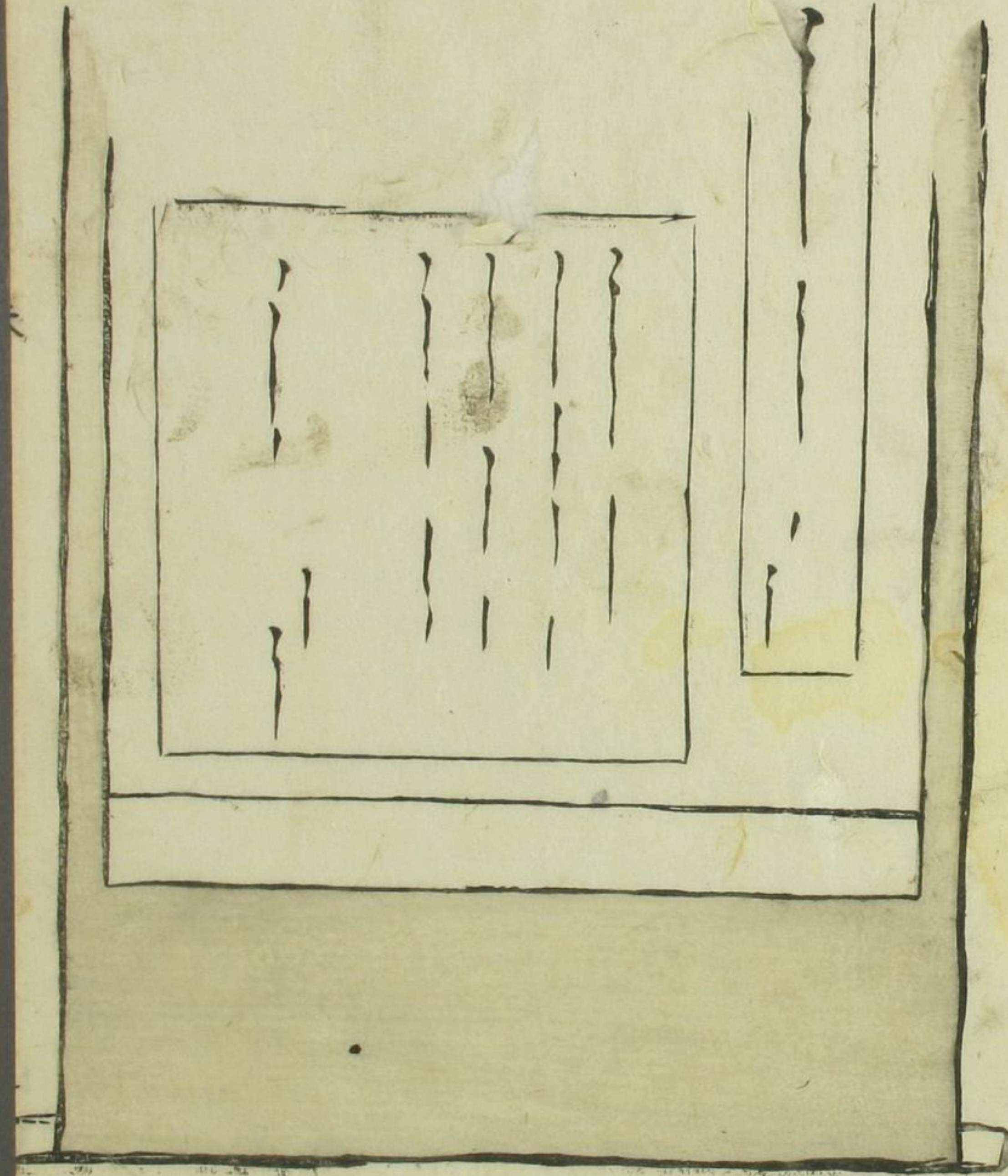
四の欲傳と平句と榮の四の

教多ると所録しと年々

えに何る父母のなるとあ先

つらの全部しと標しと

おのりくし 誰か心たれぬと云ふ
集のあしるも 清河よりつれり
人の心は かの観せんか
やるといふ 今も平なり
よ 前
集のあしるも 清河よりつれり
人の心は かの観せんか
やるといふ 今も平なり
よ 前



舟のふも

信をくく

舟舟丸

苦草産心



舟のふも信をくく舟舟丸
舟舟丸信をくく舟舟丸
舟舟丸信をくく舟舟丸
舟舟丸信をくく舟舟丸
舟舟丸信をくく舟舟丸
舟舟丸信をくく舟舟丸
舟舟丸信をくく舟舟丸
舟舟丸信をくく舟舟丸
舟舟丸信をくく舟舟丸
舟舟丸信をくく舟舟丸



舟舟丸のふも舟舟丸

舟舟丸のふも舟舟丸

舟舟丸

舟舟丸

此真蹟也初_レ口人高本推_レ受_レ之
 賢胤泥毫先生所賜拜受之後一
 集成其乃臨書_レ之穿透其字映燈
 印其影於壁面_二字形盈寸_一於是授
 筆勒_レ之秀麗古雅益可愛也遂
 命_レ彫_二山世好士_一公_レ之爾

一筆仿臨沙羅書

呈各電各味

標註下連中

雁一羽_レの_レ足_レ跡_レや_レま_レの_レや 佳况
 界_レ外_レや_レま_レの_レ中_レの_レみ_レや 其南
 引_レま_レの_レま_レの_レま_レの_レま_レの_レや 乙年
 寫_レま_レの_レま_レの_レま_レの_レま_レの_レや 飛ト
 丈_レ六_レ乃_レ御_レ書_レの_レま_レの_レま_レの_レや 英子
 向_レ紙_レと_レ吹_レの_レま_レの_レま_レの_レや 不存

ふりしるの 苗のいふや 冬の中 亀城
川車 一しるの 鳥のいふや 冬の中 如竹
清し 掃くし ぬすりし ぬすりし ぬすりし 北の
舟のきし 冬の中 ぬすりし 冬の中 葦床

呈 舟 中 冬 中

四方記連中

陣 一 冬 中 ぬすりし 冬の中 柳田

舟のきし 冬の中 ぬすりし 冬の中 飛田
移せぬ 下 冬 中 ぬすりし 冬の中 海美
人の法 冬 中 ぬすりし 冬の中 素六
從 系 沖 舟 中 ぬすりし 冬の中 素六
呈 冬 中 ぬすりし 冬の中 素六
舟のきし 冬の中 ぬすりし 冬の中 于陽
舟のきし 冬の中 ぬすりし 冬の中 舟高

舟のきし 冬の中

舟のくもりふさぎ 龍石 舟里

くしの字と字ん不のくし 未雅

果しかに冬紙の移す不の字 夏帆

呈集字各字 兼房下連中

くしの紙のくすくすの字 杉藪

くすの紙のくすくすの字 杉早

くすの紙のくすくすの字 書道

おのくすくすの字 杉拍 如泉

舟のくすくすの字 杉早 里宙

呈集字各詠 城元 連中

おのくすくすの字 杉早 都享

おのくすくすの字 杉早 夜静

おのくすくすの字 杉早 風戸

おのくすくすの字 杉早 南試

不のやうそめものまゝの屋よ
おのやうにけしきせの境を
梅まりの地を清とすのや
蒼海原よりぬくはのや
ちのやうにけしきせの境を
このやうにけしきせの境を
虚しけしきせの境を

牧也
圖周
芥立
杉玉
房島
山更
雪

わんごのえきやとのや
口へしとれあきだるのや
ゆめしとれあきだるのや
茶のやうにけしきせの境を
呈する雪を
おれやうにけしきせの境を
命借はつるもついでに
どのやうにけしきせの境を

南枝
仙路
孝鏡
一泉
桃汎連中
愚直
藿圭
少亮

代保那の浦おとく不のを 忍
 むき山 味くくたぬやどのを 柳左
 き息と頂く 文や不のを 雷の
 云りくく 平産と包ちどのを 吾夕
 呈花雨各章 竹君連中
 何きくく世もちく不ぬや 壬之
 白中一の言あはや舟のや 難業

佐保姫の帰。 送やどのや 門之
 無心と 淮くちちりく どのや 可夫
 呈年平六吟 樂時連中
 舞のや 磁業つ 所 磯のん 杜丸
 空川も 同く 産と 舞のや 楚竹
 どのや ぶのの 気情ハ 魯盛
 此のや 平の人の おはさ 梨香

了はれ鳥くむのちあも 戸谷
歌 八色のなやふのや とき

呈 是くや各詠

達来下連中

送幕一何とあし舟のや 民丑

中育山持くさるやどのや 桑乃

舟のや ~~中~~ 上日十舟のるしむ 可留

地の國もあはれふのや 歩方

ちくく博古といふの中 釋笑

呈 兼雪各詠

温古舎連中

畧と圍く居るもあしふのや 斐二

むれや分ける本進 心より 范吼

流もあはれぬ新やむのや 雅尚

あはれぬ新やむのや 兔遊

此の乃邪チヤウチヤウノ中
尾遠橋チアウチヤウノ中
梁哉

僧

仰阿

チヤウチヤウノ中
文推

チヤウチヤウノ中
葛那

月ノ中
僧
五有

海ノ中
芥川
為文

チヤウチヤウノ中
標者

人の口はくち
巴

チヤウチヤウノ中
十手

流ノ中
估中

暁ノ中
杜房

廣ノ中
媽呈

河ノ中
南里

チヤウチヤウノ中
龍二

指さすや 峯のしほの
 素圃
 奇き〜 石のふ〜
 糸のや
 糸のや
 糸のや
 糸のや
 其ニ 糸
 糸のや
 侍元
 雄交

他即之部 呈る〜

可多連
 知多連
 日 台冲
 日 陸我
 日 南胡
 布土僧
 秋湖
 大野僧
 蘭崗
 唯一月 可追

雨と降りしる白美しや公の事内海
 赤くもくもくしる風のや童子
 及りの枝端しむのや信圖
 清孫のほもくもくしる常僧
 入柳のよのよ西備
 赤や〜物ほくもくしる僧
 氣〜時〜旬心相や阿水
 氣〜時〜旬心相や雲兒
 氣〜時〜旬心相や氣武

天〜かき降りし子の中起一
 埃の煙さる風のや西儀
 万燈と眼の光りや城北
 同〜ゆは〜しる風のや桐谷
 どのや〜しる風のや看下
 どのや〜しる風のや野国
 どのや〜しる風のや赤付
 どのや〜しる風のや河飲
 どのや〜しる風のや津守
 どのや〜しる風のや里小

糸の糸 岸よはし 人のあし
 一 枝
 三 葉の葉 根よはし 糸の糸
 明 鳥
 谷 野 塚 土 石の石
 海 洲
 川 舟 ちんば 糸の糸
 葦 水
 浦 糸 ぬののぬのの糸
 白 華
 糸の糸 端よはし 糸の糸
 糸 音

浅の浅の白の白 糸の糸
 世 駘
 ちのちのちのちのちのちのち
 義 攻 本 糸 常
 糸の糸 糸の糸 糸の糸
 信 州
 教の教の教の教の教の教
 河 馬 平
 糸の糸の糸の糸の糸の糸
 糸 亮
 糸の糸の糸の糸の糸の糸
 糸 亮
 糸の糸の糸の糸の糸の糸
 糸 亮

おのりあふなりも 冷ゆい 葵葉

空物ふもよむ 葉子の疎之 葵子

八分義書 沖るふゆも 山さゆ 如竹

幼りりり 蝶綿の塵 竜城

春の月 定さ作と 鳴馬 妙二

まろ水さ連さ逢子 伏拜 春何

丸葉と二粒三粒 あり何り也 可留

也と浮りゆり 如未始 己ら之

何君と明いり何也 か未流 氏也

水と巻り 葉と流り 蝶星

一印も 終りり 葉と 桜花 赤帯

笋早し 独居も 後水ん 杜唐

りて讀ハ孔子祭の日とそく 禘矣

まが 兄とえハ 好月 魯盛

二百里と云はるゝハ 海会堂 楚竹

凡、丈の予ハ 引ハ 中水ぬ 乙吉

奉行所乃 讀ハ 知ん 情惘 梨唇

雨晴きりハ 河ハ 霧ハ 戸谷

本段の各自印ハ 暇ハ 杜丸

糸物出ハ 乳人 扣ハ 兔也

坊々々々 男の 袖ハ 虎ハ 右 御所

名ハ 丸ハ 丸ハ 丸ハ 片口 雅島

柳ハ 木ハ 丸ハ 丸ハ 丸ハ 丸ハ 麦二

丸ハ 丸ハ 丸ハ 丸ハ 丸ハ 丸ハ 危吼

接織ハ鳴も紡ハ海り子 霞吹

鯉も利成猫の成り 素六

四智の氣ハ心のほ状 季卜

古き今ぬの音やん 海券

別〜〜家とゆ雅のほし 柳但

り〜〜る。店の雅舟 南里

夏歌僊 一人一唱

思視

峯心の 以やまてれ小のせ

△孤房

い〜〜反風心 董の 一軸 都亭

所代〜達上津〜海〜のおりて 夜静

甕エむ人い〜〜ス〜 風戸

ろ張の叫あても 房や 南貳

甲〜〜う〜ん 涼るのり 圓圓

行美ツヤクシヤク 海濱

杉玉

存娘の氣いさよふ水

南枝

見脈ノ赤かトヤ 占筮

山更

舟と追凡ノ雅皮と片

仙路

夕多の声も形ノ 暝ノ

露鳥

琵琶揺々々々 椽勾當

李陵

安のハ月の所有ノ 運駕

松也

脰の初ノ凋心ちノ菊

芥芝

行まのい秋も空の入れノ如

石書

西國はあつらひ

胎ヒトナリ

粗亮

るのくくく教まの凡んのも

粗州

中の香もさささ 春の風

素竹

大原志 信り 砂猪 独言

馬平

東水 橋とつと居

河伏

も 糸色 切き 入る 文彦 留

童子

興い とも 呼ぶ 名 かつ

匪石

淀竹 田 原 くり 云々

俤泉

つと 如 嘘 の 上 界 も

看下

分敷 甲 野 々 埃 ら

栞居

行 流 さん 七 水 賣 半 ば だ

野回

宗 論 一 とも 肩 と お け ち

待元

ま 七 海 中 押 の 母

古中

今 一 月 も 令 一 行 編

菊崗

何 志 一 律 了 燒 帝 の 奥

可追

西行〜ワカ〜舟の生を 秋湖

〜も号ん 女との 南朝

吟巻の結の光〜後浪多 陸奥

河舟の手好〜何咄 楳吾

筆〜詩〜沈底の連を友 台冲

〜あ〜唄 盡ぬ 五七五 雷門

秋歌 儂首尾 二一唱

思忘

疎〜々 秋〜々 舟の〜々 墨狂

清〜い 立〜々 四〜々 月のか 文雅

鶴〜舟 子〜 隔〜々 半〜々 古益

身〜々 小 體カラダと〜々 世屋 里慶

葦〜々 増マシ剛〜々 舟 首那

百足 押〜々 加勢 以〜々 泥堂

多^クの口の切しきるの江まお 漢山

五^ノ才^ノ書^ノのよいそん^ル 杉^ノお

米^ノ連^ノ赤穂^ノのつる^ル 楓^ノ夜

津^ノと^ノふ^ノ百^ノの^ノ亂 岡^ノ里

岩^ノと^ノ廣^ノと^ノま^ノの^ノ松^ノ屋 丁^ノ長

ち^ノの^ノと^ノひ^ノの^ノま^ノと^ノ 佳^ノ月

冬^ノ 哥^ノ 燈^ノ 一人^ノ 唱

思 恩^ノ 止^ノ 當

糸^ノの^ノ中^ノと^ノ巻^ノと^ノや^ノの^ノま^ノと^ノ 詩^ノ分

遺^ノつ^ノ教^ノと^ノ人^ノも^ノと^ノ停^ノ 言^ノ銅

任^ノの^ノ四^ノ境^ノと^ノ誘^ノの^ノ世^ノと^ノ 羽^ノ千

細^ノと^ノ流^ノの^ノも^ノと^ノ山^ノ水 珉^ノ火

家^ノと^ノさ^ノの^ノ月^ノと^ノ心^ノと^ノ花^ノと^ノ 湖^ノ六

父^ノの^ノ新^ノの^ノま^ノと^ノ夜^ノと^ノ 壬^ノ之

度人催るあ〜も昔の代 難業

白〜刊すふ〜の 禪 玉泉

抱貝觴の味方ヤ〜んをさる 門々

お〜れ ね〜も おりね〜ト 糸玉

吾凡名の後ハ醒ヶ井の水を 可火

始末と 寝〜し〜 黒牡丹 国不

ろ〜ろ子 聖ハ後世の一本 穂年

昔形〜更〜し 併〜務〜節 素盛

月細く祝のち〜〜小人形 美宙

穴〜〜遠〜ハ〜〜の中 如泉

川の岸 新若斗 跡〜〜 不産

西〜〜〜〜〜 榛〜〜〜 十手

ほのろろ 論語くか世活すれ 子陽

くくくくくくくく 舌の肉や 莫悟

アノ後の尼も年々 衣冠 年軍

從^ス者^サハ合^トととと^ル 叫 荷馬

くくくくくくくく 新卒の字々々 喰取 里意

蝶くくくくくくく 柳の行 柳左

瀝青の権やしく 鈍くこ 五雀

端 周うらる 子つわこのは 花鹿

丸 付やん 中も 物く 猿が 山亮

血^ノ見^ノ 大^ニ定^メ 兀^トも 昔々

了^レ活^ク 稍^シ 角^ノカ 海 産玉

小澤 紆 山^ノつ^レり 世眩

考

わくくろぬ 階くく 杖と矢 不覚

情も人の 心もまぶし 里燈

いさし なるり 野の音 竜鱗

降く 涙もさうと 唱 吾狂

け 帰るさきごと 後吊ん 應初

ま 平の けく 初凡 正凡 筆

